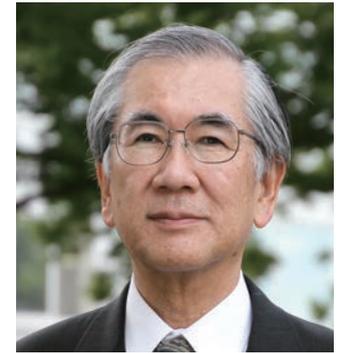




シロバナシラン (白花紫蘭)



学校法人中部大学 監事 太田明德



ラン科シラン属シラン *Bletilla striata*、多年生。シラン（紫蘭）の白花の変種。ラン科の植物は花が珍しいものは高価である。シランは丈夫で栽培し易く、入門的なランらしい。漢方ではシランの球茎を熱湯に浸け、日干しにしたものは白及と言われ、止血、痛み止めに効くという。

本州中南部から琉球、台湾、中国本土に分布。紅紫色の花をつけるが白い花の種もある。種小名 *striata* は少し内側

に巻く唇弁にある筋状の縞に由来する。写真のシランは白い花の中心が薄赤く色づき美しい。日当たりの良い斜地に自生しているのを見て写真に収めた。見つけた場所は書かないことにする。偶々学内に生を得た清楚な花を放っておくためである。

昔は「花盗人（ぬすびと）」は風雅の行いとして寛容に扱われていたようである。しかし、筆者の子供の頃、母が植えたばかりの芝桜をごっそりと持っていかれ、怒り悲しんでいた。登山ブームの頃には国立公園の高山植物が盗掘の被害に遭うこともあった。平地では育たないのに愚かなことをすると思ったものである。身近に置きたい気持ちはわからないでもない。花を自分だけのものにしないで分け与えよと言うのが花盗人の論理だろう。しかし、断りもなく持ち去るのは泥棒である。自分が持つ方が花も本望だと言うのは、狂のつくコレクターの論理である。花はあるがままにしておけば良いと思う。

もっとも、キャンパスの植生は「あるがまま」が良いとは思わない。庭園はデザインされた作品であり、木々や草本をあるがままに放置すると、勝手に伸びて景観が壊れてしまう。日常の手入れが欠かせず、景観の維持にはお金と手間がかかる。放っておくと、日本のような気候では繁茂し過ぎ、大量の落ち葉、藪蚊、ダニ、蜘蛛、ムカデ、湿気、カビ、落木その他に悩まされる。しかし、夏の夜に窓に張り付いたヤモリの狩りを眺めるのは意外な楽しみである。

ところで、主題の植物に戻って、駄句を二つ。

土手影に淡き色あり白紫蘭
つるぎ負う乙女のごとし白紫蘭

参考)

- ・「日本の野生植物」Vol. 1、佐竹義輔ら編、p 217、平凡社1982
- ・朝日百科「植物の世界」Vol. 9、9 - 178、朝日新聞社1997
- ・図説「花と樹の大事典」木村洋二郎監修、p230、柏書房1996